

HP Virtualization Performance Viewer

Windows®およびLinuxオペレーティングシステム向け

ソフトウェアバージョン: 1.20

インストールガイド

ドキュメントリリース日: 2013年11月

ソフトウェアリリース日: 2013年11月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2012-2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

謝辞

本製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) (英語サイト) により開発されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>) (英語サイト) で使用する、OpenSSL Projectにより開発されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、Eric Young (eay@cryptsoft.com) が作成した暗号化ソフトウェアが含まれています。

本製品には、Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com) が作成したソフトウェアが含まれています。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。 <http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品 サポート サービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。 <http://support.openview.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Software Solutions Now!は、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

目次

目次	5
本ドキュメントで使用される表記法	7
インストールの概要	8
vPVのインストーラ	8
インストールの必要条件	8
ハードウェアの必要条件	8
サポートされるブラウザ	9
インストールの前提条件	10
Linuxベースのインストーラ	10
Archive Extractor	10
インストールの手順	12
vPV 仮想アプライアンスのデプロイ	12
仮想アプライアンスへのログイン	13
vPVのインストール	13
在席操作によるインストール	13
非在席操作によるインストール	15
Archive Extractorの使用	16
インストールの結果	16
vPVコマンドの使用	18
vPVのセキュリティの設定	18
Secure Sockets Layer (SSLまたはHTTPS) の使用	18
ポート設定の変更	19
ライセンス管理	21
ユーザーインターフェース	21
ライセンスのタイプ	22
ライセンスのインポート	23
HP vPVの削除	24
vPV仮想アプライアンスの削除	24
LinuxでのvPVのアンインストール	24

構成およびユーザーグラフテンプレートの削除	24
クリーンアップスクリプトを使用したvPVファイルの削除	24
vPVのトラブルシューティング	26
付録:vPV仮想アプライアンスに付属するRPM	31

本ドキュメントで使用される表記法

本書ではHP Virtualization Performance Viewer (vPV) システムのファイルの位置を示す際、次の表記法が使用されています。

表記法	説明	値
<install_dir>	vPVがインストールされているディレクトリです。	Linuxシステムでは、インストールディレクトリは/opt/OVです。
<data_dir>	HPソフトウェア製品関連のデータファイルやログファイルが格納される共通データディレクトリです。	データディレクトリは、/var/opt/OVです。

インストールの概要

本章では、次の項目に関する情報を提供します。

- vPVの現行バージョンがサポートされるオペレーティングシステム

注: すべてのオペレーティングシステムのx64ビットバージョンのみがサポートされています。

- vPVを実行するために必要なハードウェアおよびソフトウェアコンポーネント
- 各オペレーティング環境で必要とされるコンポーネント

vPVをインストールする前に、「[インストールの必要条件](#)」をお読みください。

vPVのインストーラ

vPV は次の3つの形式で使用可能です。

- Linuxベースのインストーラ
- 仮想アプライアンス
- Archive Extractor

注: Archive Extractorバージョンは、Windowsオペレーティングシステム(x64ビット)のみで使用可能です。これは無償版で、ライセンス版にアップグレードすることはできません。

インストールの必要条件

インストール中、HPソフトウェアインストーラは次のタスクを実行します。

- システムがディスク容量の必要条件を満たしているかどうかを確認します。ディスク容量の詳細については、「[ハードウェアの必要条件](#)」を参照してください。
- システムに他のHPソフトウェア製品がインストールされているかどうかを確認します。
- システムのディスク容量と検出されたその他のHPソフトウェア製品の詳細ログを提供します。
- インストールされているコンポーネントの一覧を提供します。

ハードウェアの必要条件

vPVをインストールするための最低限のハードウェア要件は、次のとおりです。

項目	値
CPU	2 vCPU
メモリ	4 GB
ディスク	40 GB

動作が遅いシステムやメモリの容量が少ないシステムにインストールすると、パフォーマンスが低下する場合があります。

次の表に、vPVをプレミアムライセンスおよびエクスプレスライセンスで使用するためのハードウェア要件を示します。

ライセンス	vCPU	RAM	ディスク容量	監視されるインスタンス
エクスプレス	2	4 GB	40 GB	2000
プレミアム	2	4 GB	40 GB	1200

2000 を超えるインスタンスを監視する場合、ハードウェア要件はより高くなります。詳細については、『HP Virtualization Performance Viewer Sizing Guide』を参照してください。

サポートされるブラウザ

次の表に、vPVにアクセスするために必要なWebブラウザの一覧を示します。

オペレーティングシステム	サポートされるブラウザ
Microsoft Windows	Firefox 24 (ESR) Internet Explorer 10 Google Chrome (最新バージョン)
Linux	Firefox 24 (ESR)

vPVホームページを表示するには、Adobe® Flash Player 10.2以降をインストールし、Internet Explorer (IE) またはMozilla Firefoxブラウザで信頼済みサイトのリストにvPVを追加して、JavaScriptのサポートを有効にします。

サポートマトリックス

次の表に、vPVのサポートマトリックスを示します。

配布物	プラットフォーム/バージョン
Linuxインストーラ	RHEL 6.2、6.3、6.4 CentOS 6.2、6.4
仮想アプライアンス	CentOS 6.2

インストールの前提条件

以下にvPVのインストールの前提条件を示します。

- vPV は、ほかのHP BTOソフトウェア製品と共存できません。
- vPVがインストールされているシステムにファイアウォールが存在する場合、ポート8081が開いていてvPVがリモートブラウザからアクセスできることを確認してください。
- HTTPSモードでアクセスするには、ポート8444を開く必要があります。
- vPVとMicrosoft System Center Virtual Machine Manager (SCVMM) サーバーの間にファイアウォールがある場合、vPV (標準設定で8081) にアクセスするために使われるポートがファイアウォールで開いていることを確認してください。
- VAMI (Virtual Appliance Management Interface) にアクセスするには、ポート5480を開く必要があります。

Linuxベースのインストーラ

vPVのインストーラバージョンの前提条件は次のとおりです。

- vPVサーバーにLibvirtとそのすべての依存関係をインストールします。

Libvirtは、Linux、KVM、Xenなどの仮想プラットフォームを管理するためのオープンソースの管理ツールです。

Libvirtは、次のLinuxのタイプのバージョンにインストール可能です。

Linuxのタイプ	OSのバージョン
CentOS	6.2
	6.3
RHEL	6.2
	6.3

- vPVサーバーにExpectとそのすべての依存関係をインストールします。

Expectは、sshなどのインタラクティブなプログラムと通信するツールです。

Archive Extractor

vPVのArchive Extractorバージョンの前提条件は次のとおりです。

- Java Runtime Environment (JRE) 1.6.0_35以上
- 環境変数 JAVA_HOME または JRE_HOME が確実に設定されている
- Adobe Flash Player 10.2以上

インストールの手順

本項では、vPVをインストールする手順について説明します。

- [「vPV 仮想アプライアンスのデプロイ」](#)
- [「vPVのインストール」](#)
- [「Archive Extractorの使用」](#)

注: vPV 1.2にvPV 1.00または1.10からアップグレードすることはできません。.

vPV 仮想アプライアンスのデプロイ

vPVを仮想アプライアンスとして使用することで、vCenterで簡単にデプロイできます。VMware vSphere Clientユーザーインターフェイスを使用して、仮想アプライアンスをデプロイできます。

VMware vCenter Serverのバージョン4.1、5、5.1をサポートしています。

vPV仮想アプライアンスをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. VMware vSphere Clientを開きます。
2. 資格情報を入力し、**[ログイン]** をクリックします。
3. **[ファイル]** > **[OVFテンプレートのデプロイ]** の順に選択します。**[OVFテンプレートのデプロイ]** ウィンドウが開きます。
4. **[参照]** をクリックして、vPV仮想アプライアンスファイルを保存している場所を参照します。
5. **[次へ]** をクリックします。ウィンドウに、仮想アプライアンスの詳細が表示されます。
6. **[次へ]** をクリックします。エンドユーザーライセンス契約の詳細が表示されます。
7. **[同意]** をクリックし、**[次へ]** をクリックします。
8. **[名前]** フィールドに仮想アプライアンスの名前を入力します。
9. **[インベントリの場所]** ツリーから仮想アプライアンスのデプロイ先を選択します。**[次へ]** をクリックします。
10. 仮想アプライアンスを実行する場所としてホストまたはクラスタを選択します。**[次へ]** をクリックします。
11. 仮想アプライアンスを実行する場所として特定のホストを選択します。**[次へ]** をクリックします。
12. 仮想マシンファイルの保管先のストレージ場所を選択します。**[次へ]** をクリックします。
13. 仮想ディスクを保管するためのディスク形式を選択します。**[次へ]** をクリックします。

14. 必要なネットワークプロパティを入力して、[次へ]をクリックします。ウィンドウに、デプロイメントの詳細が表示されます。
15. [デプロイ後にパワーオン] チェックボックスを選択します。
16. [終了]をクリックします。デプロイメントタスクが開始します。デプロイ後、仮想アプライアンス名がVMware vSphere Clientユーザーインターフェイスのツリーに表示されます。

注: 詳細については、VMwareのマニュアルを参照してください。VMwareによっては、手順が変更される場合があります。

仮想アプライアンスへのログイン

ユーザー名 `root` を使用して、vPV 仮想アプライアンスにログインできます。デフォルトのパスワードは `vperfviewer` です。このパスワードは、ログイン後に変更することを推奨します。

vPVのインストール

HP vPVは、次のいずれかの手順によりLinuxシステムにインストールできます。

- [「在席操作によるインストール」](#)
- [「非在席操作によるインストール」](#)

注: システムにvPVをインストールするには、rootユーザーとしてログオンする必要があります。

在席操作によるインストール

グラフィックインターフェイスおよびコマンドラインインターフェイスを介してLinuxシステムにHP vPVをインストールできます。

グラフィックインターフェイスを介してのHP vPVのインストール

X11インターフェイスを使用してvPVをインストールするには、次のタスクを実行します。

1. rootユーザーとしてログインします。
2. CD/DVDドライブにHP vPV CD/DVD-ROMメディアを挿入します。必要な場合は、CD/DVD-ROMをマウントします。
3. X11ターミナルウィンドウを使用してインストールを開始する場合は、次のコマンドを入力することで、DISPLAY変数をエクスポートしてX11ターミナルをポイントします。

```
export DISPLAY=<IP_Address/system_name>:0.0
```

ここで、<IP_Address/system_name>はX11ターミナルのIPアドレスまたはシステム名です。

4. 次を入力します。

```
<CD/DVD-ROM> HPPV_1.xx.xxx_setup.bin
```

ここで、<CD/DVD-ROM>はCD/DVD ROMのドライブ文字です。

HP vPVインストールウィザードが表示されます。このウィンドウに、紹介メッセージが表示されま

注: Linuxシステムに初めてHP vPVをインストールする場合は、インストールパラメータを含むovinstallparams.iniファイルがシステムのtemporaryディレクトリに作成されます。インストール時、HPインストーラによってovinstallparams.iniファイルの確認が実行されます。HPインストーラがシステムでovinstallparams.iniファイルを検出すると、このファイルの値を再利用するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

- 構成ファイルの値をデフォルト値として使用する場合は、[はい]をクリックします。
- 既存の構成ファイルを上書きする場合は[いいえ]をクリックします。

HPインストーラがファイルを検出しない場合、システムによってデフォルト値を含むovinstallparams.iniファイルがtemporaryディレクトリに作成されます。ovinstallparams.iniデータを保存するには、その他のHP製品をインストールする前にファイルを別の場所にコピーします。

5. HP vPVインストールウィザードで[次へ]をクリックします。ライセンス契約の画面が表示されます。
6. ライセンス契約の条件を確認します。インストールを続行するには、[ライセンス使用許諾に同意します]オプションを選択します。インストールウィザードによってインストールチェックが実行されます。
7. [次へ]をクリックします。インストール前の概要の画面が表示されます。この画面には、インストールされるコンポーネントの一覧が表示されます。
8. [インストール]をクリックします。

注: インストールが失敗した場合は、ロールバックするか、インストールを中止できます。[ロールバック]オプションでは、すでにインストールされているコンポーネントを削除します。

[終了]をクリックすると、インストールが終了しますが、その時点ですでにインストールされているコンポーネントはアンインストールされません。

次回vPVのインストールを開始するときに、インストーラによってvPVのインストールを再開するか、アンインストールするかを確認するプロンプトが表示されます。

9. [詳細] タブをクリックし、コンポーネントツリーを展開して、コンポーネントの一覧を表示します。
10. システムのログファイルを表示するには、[ログファイルの表示]をクリックします。
11. [終了]をクリックして、インストールを終了します。

注: システムを再起動する必要がある場合は、インストールの完了後に「システムの構成の変更を有効にするには、システムを再起動する必要があります。インストールを終了しますか?」というメッセージが表示されます。

インストール後にシステムを再起動することをお勧めします。

コマンドラインインターフェイスを介してのHP vPVのインストール

注: コンソールモードでvPVをインストールする際はローカリゼーションはサポートされません。この結果、一部のテキストは判読できない場合があります。

コマンドラインインターフェイスを介してvPVをインストールするには

1. rootユーザーとしてログインします。
2. CD/DVDドライブにHP vPV CD/DVD-ROMメディアを挿入します。必要な場合は、CD/DVD-ROMをマウントします。
3. 次のコマンドを実行します。

スタンドアロンシステムにvPVをインストールする場合

```
<CD/DVDROM_mount>/HPPV_1.xx.xxx_setup.bin -i console
```

ここで、<CD/DVD-ROM>はCD/DVD ROMのドライブ文字です。

4. ライセンス情報の「**ライセンス使用許諾に同意します**」というプロンプトが表示されたら、「**Y**」を入力して契約条項に**同意**し、インストールを続行します。インストーラによってすべてのインストール要件がチェックされます。
5. **Enter**をクリックして続行します。インストール前の概要が表示されます。
6. **Enter**をクリックして続行します。

インストールが完了すると、インストールが正常に完了したことを示すメッセージが表示されます。

非在席操作によるインストール

非在席操作によるインストールを実行するには

1. rootユーザーとしてログインします。
2. CD/DVDドライブにHP vPV CD/DVD-ROMメディアを挿入します。必要な場合は、CD/DVD-ROMをマウントします。
3. CD/DVD-ROMがマウントされているディレクトリに移動します。
4. コマンドプロンプトで、次の構文を入力します。

```
./HPPV_1.xx.xxx_setup.bin -i silent
```

注: インストーラによって正常に動作するHP vPVが検出されると、`-i silent` コマンドを実行したときにHP vPVがアンインストールされます。検出されない場合は、vPVがインストールされます。

5. インストールを検証するには、ログファイルを確認します。

Archive Extractorの使用

vPVは迅速にダウンロードして使用できる、Archive Extractorバージョン (Windowsのみでサポート) として利用可能です。

Archive Extractorバージョンの仕様を開始するには、次の手順を実行します。

1. **HPPV_ArchiveExtractor_<version_number>.zip**ファイルのコンテンツをフォルダに抽出します。
2. *run.bat*スクリプトを実行します。

vPVユーザーインターフェイスにアクセスするには、ブラウザを開いて次のURLを入力します。

```
http://<IP address/system name>:<port number>/PV
```

<IP address/system name>がvPVサーバーのIPアドレスまたはシステム名で、<ポート番号>がvPVサーバーのポート番号の場合。

注: vPVは、Archive Extractorを使用してインストールした場合、KVM、Xen、HP aPaaS、またはOpenStackをデータソースとしてサポートしません。

vPVのArchive Extractorバージョンの使用を停止するには、*stop.bat*スクリプトを実行します。

インストールの結果

正常なインストールの場合

- Linuxシステムでは、アプリケーションディレクトリおよびデータディレクトリのパスが表示されます。
- 次のインストールログファイルを表示できます。
 - Linuxの場合 `:/tmp/HPPV_1.xx.xxx_HPPVInstaller.txt`

```
/var/tmp/HPPVInstaller/PerfUtil-mm-dd-yyyy.log.0
```

この場合、mmは月、ddは日、yyyyは年を示します。ファイル名は、インストールが実行された時間を示します。

次の図に示すようにフォルダ構造を表示できます。

/opt/OV/newconfig/OVPM/smepack					
Name	Ext	Size	Changed	Rights	Owner
↑	..		9/25/2013 1:28:50 AM	r-xr-xr-x	bin
📁	HPAPASS		9/25/2013 5:18:46 AM	rwxr-xr-x	root
📁	KVM		9/25/2013 5:18:46 AM	rwxr-xr-x	root
📁	OPENSTACK		9/25/2013 5:18:46 AM	rwxr-xr-x	root
📁	VCENTER		9/25/2013 5:18:45 AM	rwxr-xr-x	root
📁	XEN		9/25/2013 5:18:46 AM	rwxr-xr-x	root

vPVコマンドの使用

vPV のインストール後、次のコマンドを使用して、コマンドプロンプトからvPVワークスペースを管理できます。

`<bin_dir>/pv <オプション>`

`<オプション>`は、次のいずれかの変数で置き換えることができます。

- **status** : vPVのステータスを確認します。
- **start** : vPVを起動します。

`pv start`コマンドを実行すると、OvTomcatBを使用するすべてのアプリケーションが起動します。

- **stop** : vPVを停止します。

`pv stop`コマンドを実行すると、OvTomcatBを使用するすべてのアプリケーションが停止します。

- **restart** : vPVを停止してから起動します。
- **trace on** : 詳細なトレースファイルの生成を開始します。
- **trace off** : 詳細なトレースファイルの生成を停止します。
- **version** : システムにインストールされているvPVのバージョンを表示します。

vPVのセキュリティの設定

vPVのセキュリティは、次の方法で設定できます。

- vPVへの物理アクセスの制限 - ログオンおよびアクティビティを実行するために、物理アクセスが必要です。vPVに対して、追加のシステムログオンセキュリティを設定できます。
- vPVへのネットワークアクセスの制限 - 分離したネットワークまたはファイアウォールを使用して、vPVへのネットワークアクセスを制限できます。
- セキュリティ保護された通信の使用 - クライアントでSecure Sockets (HTTPS) 通信を使用するようにvPVを設定できます。詳細については、次の項を参照してください。

Secure Sockets Layer (SSLまたはHTTPS) の使用

vPVでは、HTTPおよびHTTPSプロトコルがデフォルトで有効になっています。HTTPおよびHTTPSのデフォルトのポート番号は、それぞれ8081と8444です。どちらのプロトコルを使用するかを選択できます。ただし、管理関係のタスクについては、セキュリティを保証するためセキュリティ保護された通信モードでvPVにアクセスする必要があります。セキュアモードでvPVにアクセスするには、次のURLを使用します。

`https://<システム名>:8444/PV`

非セキュアモードでvPVにアクセスするには、次のURLを使用します。

```
http://<システム名>:8081/PV
```

また、HTTPおよびHTTPSの両方の通信でデフォルトのポート設定を変更することもできます。

ポート設定の変更

vPVにアクセスするためのデフォルトのHTTPポート番号は8081、セキュリティ保護された接続のデフォルトのポート番号は8444です。vPVサーバーへの接続は、すべてのクライアントシステムに許可されています。vPVサーバーのデフォルトのポート番号を変更するには、次の手順を実行します。

1. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行して、目的のポート番号を利用できるかどうかを確認します。

```
cd <bin_dir>
```

```
ovtomcatbctl -checkport <ポート番号>
```

ポートが利用可能である、または使用中であることを示すメッセージが表示されます。たとえば、ポート番号8081が利用可能かどうかを確認すると、そのポートが利用可能であれば「Port Number 8081 is not in use (ポート番号8081は使用されていません)」というメッセージが表示されます。ポート番号8081を利用できない場合、そのポート番号が別のプログラムまたはサービスにより使用中であることを示すメッセージが表示されます。

2. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行してvPVを停止します。

```
ovpm stop
```

3. vPVサーバーのHTTPまたはHTTPSのポート番号を変更するには、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
cd <bin_dir>
```

```
ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -Set HTTPPort <ポート番号>
```

```
ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -Set HTTPSPort <ポート番号>
```

4. vPVサーバーを起動します。

セキュリティ保護された通信の無効化

セキュリティ保護された通信を無効にするには、次の手順を実行します。

1. vPVが動作している場合はvPVを停止します。
2. コマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します。

```
cd <bin_dir>
```

```
ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -set EnableHTTPS False
```

注: セキュリティ保護された通信を再度有効にするには、前のコマンドの値を**False**ではなく**True**に設定します。

3. vPVを再起動します。

Tomcat WebサーバーでのSSLまたはHTTPSの使用

Tomcat WebサーバーでSSLプロトコルまたはHTTPSプロトコルを使用するには、vPVのインストール後にTomcatのサーバー証明書を取得する必要があります。vPVのインストール後に取得した証明書は、次の場合に置き換えることができます。

- HTTPSプロトコルを使用してvPVに接続すると、証明書とシステムの名前が比較され、名前が一致することが確認されます。名前が異なる場合は、ほとんどのブラウザで警告が表示され、接続を続行するかキャンセルするかを選択できます。HTTPSユーザーが使用する名前が、vPVのインストールで使用された名前と異なる場合は、別の証明書を取得する必要があります。
- vPVのインストール時に空白にしていた証明書のフィールドに値を入力する場合は、新しい証明書の取得が必要になる場合があります。証明書には、証明書の発行者などの情報を提供する多くのフィールドおよび証明書によって提供される安全を保証する他のフィールドがあります。vPVのインストール証明書のほとんどのフィールドが空白になっています。
- 不正な変更を防ぐために証明書のデフォルトパスワードを変更する場合は、既存の証明書を置き換える必要があります。

Tomcat SSL証明書を置き換えるには、次の手順を実行します。

1. コマンドプロンプトで次のコマンドを実行して既存の証明書を削除します。

```
keytool -delete -alias ovtomcatb -keystore /var/opt/OV/certificates/tomcat/b/tomcat.keystore
```

Linuxのkeytoolのパスは、`/opt/OV/nonOV/jre/b/bin`です。

2. vPVを再起動します。
3. 新しい証明書を作成します。新しい証明書を作成するには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力してKeytoolを実行します。


```
keytool -genkey -alias ovtomcatb -keyalg RSA -keystore  
/var/opt/OV/certificates/tomcat/b/tomcat.keystore
```

4. vPVを再起動します。

ライセンス管理

vPVのインストール後、ビジネス上の要件に基づく適切なライセンスの購入が可能です。これらのライセンスによって、製品のすべての機能にアクセスできるようになります。

vPVユーザーインターフェイスで [ライセンス] タブにアクセスするには、次の手順を実行します。

1. vPVユーザーインターフェイスにログインしてライセンスをインポートします。
2. [オプション] ペインで  をクリックして、vPVのホームページから [管理] ページを起動します。

[ライセンス管理] タブには、vPVのライセンスに関する情報が表示されます。また、このタブを使用して、評価ライセンスの使用を開始したり、vPVのライセンスをインポートしたりできます。ライセンスのインポートの詳細については、「[ライセンスのインポート](#)」を参照してください。

注: エクスプレスライセンスを使用するvPVサーバーにコミュニティライセンスをインストールすると、コミュニティライセンスは期限切れになります。

コミュニティライセンスを保持する場合は、別個のvPVサーバーを作成してコミュニティライセンスをインストールします。

ライセンス間の違いおよび利用可能な機能の詳細については、「[ライセンスのタイプ](#)」を参照してください。

ユーザーインターフェイス

次の表に、[ライセンス管理] タブの各セクションを示します。

セクション	説明
ライセンスステータス	インストールされているライセンスに関する情報が表示されます。次の2つの表が表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• アクティブなライセンスの詳細• インストールされているライセンス
ライセンスの管理	永久ライセンスをインポートします。

[**アクティブなライセンスの詳細**] 表には、vPVの現在のライセンスに関する次の情報が表示されます。

- インストールされているライセンスのタイプ
- ライセンスが期限切れになる日付およびそれまでの日数
- インストールされているライセンスで監視可能なインスタンス数
- 現在監視されているインスタンス数

[インストールされているライセンス] 表には、vPVのアクティブなライセンスおよびインストールされているすべてのライセンスに関する次の情報が表示されます。

- アクティブなすべてのライセンスおよびインストールされているすべてのライセンス
- ライセンスごとに利用可能なインスタンスの最大数または数

注: 現在アクティブなライセンスがコミュニティライセンスの場合、[インストールされているライセンス] 表は表示されません。

ライセンスのタイプ

次の表に、vPVの無償ライセンス、評価ライセンス、および永久ライセンスで利用可能な機能を示します。

機能	コミュニティライセンス	エクスプレスライセンス	プレミアムライセンス	評価ライセンス
インスタンス数	25のインスタンス	6000 6000のインスタンスまでをテスト済みです。より大規模な構成をサポート可能です。詳細については、『vPV Sizing Guide』を参照してください。		
データ保有期間	最大24時間	90日間	90日間	60日間
Enterprise Directoryの統合	なし	あり	あり	あり
レポート	あり	あり	あり	あり
HP PMおよびHP BSMの統合	なし	あり	あり	あり
HP CSAの統合	なし	なし	あり	あり
高度なトラブルシューティング用のゲストOSドリルダウン	なし	なし	あり	あり
現在の容量レポート (VMwareのみ)	なし	なし	あり	あり
容量の最適化 (VMwareのみ)	なし	なし	あり	あり
仮想マシンの配置 (VMwareのみ)	なし	なし	あり	あり
容量の需要予測 (VMwareのみ)	なし	なし	あり	あり

注: インスタンスの数は、VMとホストの数のみを示します。

評価ライセンスでは、製品のすべての機能を利用できます。評価ライセンスとプレミアムライセンスは、有効期間のみが異なります。

vPVのArchive Extractorバージョンは簡単に使える無償版としてのみ利用可能で、ライセンス版にアップグレードすることはできません。

評価ライセンス

vPVをインストールした後のアクティブなライセンスは、デフォルトでコミュニティライセンスになります。評価ライセンスの使用を開始するには、[評価の開始]をクリックします。ページが更新されて、評価ライセンスに関する情報が表示されます。

評価ライセンスが(60日経過後に)期限切れになると、ライセンスは自動的にコミュニティライセンスに変更されます。

ライセンス有効期間

次の表に、vPVの各ライセンスの有効期間を示します。

ライセンス	有効期間
コミュニティ	なし
評価	60日間
プレミアム	ライセンスの発注日によって異なります
エクスプレス	ライセンスの発注日によって異なります

ライセンスのインポート

ライセンスを購入したら、vPVを使用して開始する前にインポートする必要があります。

vPVのライセンスをインポートするには、次の手順を実行します。

1. [管理] ページの [ライセンス管理] タブに移動します。
2. [ライセンスの管理] セクションの [ライセンスキー] フィールドにライセンスキーを入力します。
3. [ライセンスのインポート] をクリックします。[ライセンスステータス] セクションが更新され、インポートされたライセンスの詳細が表示されます。

入力したライセンスキーをクリアするには、[リセット] をクリックします。

HP vPVの削除

次の項に記述される手順を使用することで、LinuxシステムにインストールされたvPVを削除できます。

vPV仮想アプライアンスの削除

vPV仮想アプライアンスを削除するには、VMの電源をオフにしてからVMを削除します。

LinuxでのvPVのアンインストール

vPVをLinuxシステムから削除するには、次の手順を実行します。

1. rootユーザーとしてログオンします。
2. /opt/OV/Uninstall/HPPVに移動します。
3. アンインストールコマンドを実行します。
 - X11インターフェイスを使用するには、必要に応じてDISPLAY変数をエクスポートして、X11ターミナルをポイントします。次に、コマンドを実行します。

```
./setup.bin
```

- コマンドラインインターフェイスを使用するには、次のコマンドを実行します。

```
./setup.bin -i console
```

4. [アンインストール]を選択します。

構成およびユーザーグラフテンプレートの削除

vPVを削除しても、構成またはユーザーグラフテンプレートは削除されません。ファイルをデータディレクトリから手動で削除する必要があります。

クリーンアップスクリプトを使用したvPVファイルの削除

vPVを削除した後、次のクリーンアップスクリプトを実行する必要があります。このスクリプトは、<install_dir>\supportにあります。

- clnup_pv.sh (Linuxの場合)

クリーンアップスクリプトによって<data_dir>\conf\perfから次のファイルが削除されます。

- OVPMconfig.ini
- OVPMUsers.xml

- OVPMSystems.xml
- ovpm.tcf
- VPI_GraphsUserFavorites.txt
- OVPMReportTemplate.htm
- 「VPI_」で始まる名前のすべてのフォルダ。
- すべてのPVデータベース関連ファイル

注: 同じシステムにvPVを再インストールする場合は、必ずクリーンアップスクリプトの実行後に次のフォルダを削除してください。

- /opt/OV/
- /opt/vertical/
- /var/opt/OV/

vPVのトラブルシューティング

本項では、vPVをトラブルシューティングする方法について説明します。

ログファイルサイズの増加のため、Verticaデータベースの容量がほぼ満たされる。

現象	ログファイルサイズの増加のため、Verticaデータベースの容量がほぼ満たされてしまいます。
原因	Verticaデータベースは、ログデータを日次で.gzファイルに統合、保管します。デフォルトでは、「ローテーション」というこの処理は52週にわたり続きます。
解決策	<p>Verticaデータベースの容量を増加させるには、次の2つのソリューションのいずれかを実施します。</p> <p>ソリューション1</p> <ol style="list-style-type: none">1. <code>/opt/vertica/config/logrotate/</code>に移動します。2. <code>pv</code>ファイルを開きます。3. <code>pv</code>ファイルの# and keep for 52 weeksで、<code>rotate</code>の値を52からローテーションされたログファイルを保存する週数に変更します。 <p>例:rotate 3</p> <p>この場合、Verticaデータベースは3週にわたり.gzファイルを保管します。</p> <ol style="list-style-type: none">4. すべての# and keep for 52 weeksインスタンスに対して、手順3を繰り返します。5. ファイルを保存して閉じます。 <p>ソリューション2</p> <ol style="list-style-type: none">1. rootユーザーとしてログインします。2. vPVサーバーで次のコマンドを実行します。 <pre>cd /opt/vertica/bin ./admintools -t logrotate -d pv -r weekly -k <number_of_weeks></pre> <p>ここで<number_of_weeks>は、ローテーションされたログを保管する週数です。</p>

アクセスできない vPV

現象	デフォルトのネットワークポート設定を使用してvPVにアクセスできません。
原因	<ul style="list-style-type: none"> rootではないユーザーまたは非ローカルシステムアカウント権限で動作するようにovTomcatBが設定されているシステムに、vPVがインストールされています。 デフォルトのhttpポート (8081) またはhttpsポート (8444) が他のアプリケーションによって使用中の場合、それらのポートを使用してvPVにアクセスすることはできません。
解決策	<ul style="list-style-type: none"> rootではないユーザーまたは非ローカルシステムアカウント権限で動作するようにovTomcatBが設定されているかどうかを確認します。そのように設定されていた場合、管理者権限またはrootユーザー権限でovTomcatBが動作するように設定を変更します。 次のURLを使用してvPVにアクセスします。 http://<IP address/system name>:<port number>/PV <IP address/system name>がvPVサーバーのIPアドレスまたはシステム名で、<ポート番号>がvPVサーバーのポート番号の場合。 vPVのホームページが表示されない場合、デフォルトポートが使用中かどうかを確認します。 ポート設定を変更するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> コマンドプロンプトで次のコマンドを実行して、HTTPポート、HTTPSポート、およびシャットダウンポートのポート番号を変更します。 <bin_dir>ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -set HTTPPort <ポート番号> <bin_dir>ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -set HTTPSPort <ポート番号> <bin_dir>ovconfchg -ns NONOV.TomcatB -set ShutdownPort <ポート番号> vPVを再起動します。

HTTPSプロトコルを使用してvPVサーバーに接続することができない

現象	セキュリティ保護されたHTTPS通信プロトコルを使用してvPVからサーバーに接続することができません。
原因	vPVがセキュリティ保護されたクライアントから、デフォルトのタイムアウト間隔である1秒以内に接続できない場合、接続がタイムアウトします。

解決策	ご使用のインターネット接続またはインフラストラクチャ設定に応じて、パラメーター <code>SECURE_CLIENT_CONNECT_TIMEOUT</code> を使用して、vPV サーバーに接続する際のタイムアウト間隔を調整します。
-----	---

vPV のデプロイが失敗する

現象	vPV Virtual Appliance のデプロイが失敗します。
原因	この現象は、ESX サーバーの時間が将来の時間に設定されていない場合に起こることがあります。
解決策	ESX サーバーの時間が正しく設定されていることを確認します。

vPV のホームページのコンテンツを表示できない

現象	vPV のホームページには見出し以外に何も表示されません。
原因	ブラウザで、JavaScript が有効になっていないか、または Adobe® Flash Player がインストールされていません。最低限必要なバージョンは、Adobe® Flash Player バージョン 10.3 です。

解決策	<p>Adobe® Flash Playerをインストールし、Internet Explorer (IE) またはMozilla Firefoxブラウザで、信頼済みサイトのリストにvPVを追加することによって、JavaScriptのサポートを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none">• vPVのWebサーバーのURLを信頼済みサイトに追加するには、次の手順を実行します。 <p>IEブラウザの場合</p> <ol style="list-style-type: none">a. [ツール] メニューの[インターネット オプション] をクリックします。[インターネット オプション] ポップアップが表示されます。b. [セキュリティ] タブをクリックします。c. [信頼済みサイト] アイコンを選択します。d. [サイト] をクリックします。[信頼済みサイト] ポップアップが表示されます。e. vPVのWebサーバーのURLを入力して [追加] をクリックします。入力したURLが信頼済みサイトのリストに表示されます。f. [閉じる] をクリックします。g. [OK] をクリックします。h. ブラウザーを再起動します。 <p>Mozilla Firefoxブラウザの場合</p> <ol style="list-style-type: none">a. [編集] メニューの[設定] をクリックします。[オプション] ポップアップが表示されます。b. [プライバシー] タブをクリックします。c. [許可サイト] をクリックします。d. [サイトのアドレス] の下のボックスに、vPVのWebサーバーのURLを入力します。e. [許可] をクリックします。f. [閉じる] をクリックします。g. [OK] をクリックします。h. ブラウザーを再起動します。 <ul style="list-style-type: none">• Adobe® Flash Playerがブラウザにインストールされていない場合、vPVのホームページは表示されません。vPVのホームページを表示するにはAdobe Flash Playerをインストールする必要があることを伝えるメッセージがブラウザに表示されます。このメッセージをク
-----	---

	<p>リックして、Adobe® Flash Playerをダウンロードします。</p> <ul style="list-style-type: none"> IEブラウザの場合、vPVのホームページを信頼済みサイトに追加しても、JavaScriptが有効になっていなければ、このページを表示することはできません。ブラウザでJavaScriptが有効になっていないこと、およびページを表示するにはJavaScriptを有効にする必要があることを伝えるメッセージがブラウザに表示されます。 <p>JavaScriptのサポートを有効にするには、次の手順を実行します。</p> <p>IEブラウザの場合</p> <ol style="list-style-type: none"> [ツール] メニューの [インターネット オプション] をクリックします。[インターネット オプション] ポップアップが表示されます。 [セキュリティ] タブをクリックします。ブラウザ設定のセキュリティレベルが [高] に設定されているかどうかを確認します。 [信頼済みサイト] アイコンが選択されていることを確認し、[レベルのカスタマイズ] をクリックします。[セキュリティの設定] ポップアップが表示されます。 [スクリプト] セクションまでスクロールして、[アクティブ スクリプト] の [有効にする] オプションを選択します。 [OK] をクリックします。 [適用] をクリックします。 <p>Mozilla Firefoxブラウザの場合</p> <ol style="list-style-type: none"> [ツール] メニューの [オプション] をクリックします。 [コンテンツ] をクリックします。 [JavaScriptを有効にする] チェックボックスを選択します。 [OK] をクリックします。
--	---

HTTPステータス404 - /PVエラー

現象	vPVにアクセスすると、「HTTPステータス404 - /PVエラー」というメッセージが表示されます。
原因	このメッセージは、<インストールディレクトリ>/www/webapps/PVディレクトリが空の場合に表示されます。
解決策	もう一度、<インストールディレクトリ>/newconfig/PVからPerf.warファイルを<インストールディレクトリ>/www/webapps/PVに抽出します。コマンド pv deploywarを実行します。

付録:vPV仮想アプライアンスに付属するRPM

vPV 仮想アプライアンスに付属するRPMには、次のものがあります。

- setup-2.8.14-20.el6.noarch
- basesystem-10.0-4.el6.noarch
- tzdata-2012j-1.el6.noarch
- glibc-common-2.12-1.107.el6.x86_64
- ncurses-libs-5.7-3.20090208.el6.x86_64
- libattr-2.4.44-7.el6.x86_64
- zlib-1.2.3-29.el6.x86_64
- audit-libs-2.2-2.el6.x86_64
- popt-1.13-7.el6.x86_64
- db4-4.7.25-17.el6.x86_64
- nspr-4.9.2-1.el6.x86_64
- bzip2-libs-1.0.5-7.el6_0.x86_64
- libselinux-2.0.94-5.3.el6.x86_64
- sed-4.2.1-10.el6.x86_64
- glib2-2.22.5-7.el6.x86_64
- gawk-3.1.7-10.el6.x86_64
- sqlite-3.6.20-1.el6.x86_64
- libxml2-2.7.6-8.el6_3.4.x86_64
- libstdc4.4.7-3.el6.x86_64
- dbus-libs-1.2.24-7.el6_3.x86_64
- grep-2.6.3-3.el6.x86_64
- findutils-4.4.2-6.el6.x86_64
- cyrus-sasl-lib-2.1.23-13.el6_3.1.x86_64
- libblkid-2.17.2-12.9.el6.x86_64

- keyutils-libs-1.4-4.el6.x86_64
- libgssglue-0.1-11.el6.x86_64
- libgpg-error-1.7-4.el6.x86_64
- vim-minimal-7.2.411-1.8.el6.x86_64
- checkpolicy-2.0.22-1.el6.x86_64
- sysvinit-tools-2.87-4.dsf.el6.x86_64
- perl-Pod-Escapes-1.04-129.el6.x86_64
- perl-Module-Pluggable-3.90-129.el6.x86_64
- perl-libs-5.10.1-129.el6.x86_64
- pth-2.0.7-9.3.el6.x86_64
- keyutils-1.4-4.el6.x86_64
- grubby-7.0.15-3.el6.x86_64
- upstart-0.6.5-12.el6.x86_64
- libusb-0.1.12-23.el6.x86_64
- nss-softokn-3.12.9-11.el6.x86_64
- xz-lzma-compat-4.999.9-0.3.beta.20091007git.el6.x86_64
- MAKEDEV-3.24-6.el6.x86_64
- net-tools-1.60-110.el6_2.x86_64
- tar-1.23-11.el6.x86_64
- pinentry-0.7.6-6.el6.x86_64
- e2fsprogs-libs-1.41.12-14.el6.x86_64
- which-2.19-6.el6.x86_64
- diffutils-2.8.1-28.el6.x86_64
- dash-0.5.5.1-4.el6.x86_64
- groff-1.18.1.4-21.el6.x86_64
- coreutils-libs-8.4-19.el6.x86_64

- cracklib-2.8.16-4.el6.x86_64
- coreutils-8.4-19.el6.x86_64
- module-init-tools-3.9-21.el6.x86_64
- redhat-logos-60.0.14-12.el6.centos.noarch
- libpciaccess-0.13.1-2.el6.x86_64
- rpcbind-0.2.0-11.el6.x86_64
- nss-3.14.0.0-12.el6.x86_64
- nss-tools-3.14.0.0-12.el6.x86_64
- libuser-0.56.13-5.el6.x86_64
- pciutils-libs-3.1.10-2.el6.x86_64
- mingetty-1.08-5.el6.x86_64
- ustr-1.0.4-9.1.el6.x86_64
- libffi-3.0.5-3.2.el6.x86_64
- newt-0.52.11-3.el6.x86_64
- ca-certificates-2010.63-3.el6_1.5.noarch
- python-libs-2.6.6-36.el6.x86_64
- libssh2-1.4.2-1.el6.x86_64
- curl-7.19.7-35.el6.x86_64
- rpm-4.8.0-32.el6.x86_64
- python-pycurl-7.19.0-8.el6.x86_64
- gnupg2-2.0.14-4.el6.x86_64
- pygpgme-0.1-18.20090824bZR68.el6.x86_64
- yum-metadata-parser-1.1.2-16.el6.x86_64
- yum-plugin-fastestmirror-1.1.30-14.el6.noarch
- bind-libs-9.8.2-0.17.rc1.el6.x86_64
- fipscheck-lib-1.2.0-7.el6.x86_64

- kbd-misc-1.15-11.el6.noarch
- policycoreutils-2.0.83-19.30.el6.x86_64
- iproute-2.6.32-23.el6.x86_64
- util-linux-ng-2.17.2-12.9.el6.x86_64
- udev-147-2.46.el6.x86_64
- plymouth-0.8.3-27.el6.centos.x86_64
- dracut-004-303.el6.noarch
- rsyslog-5.8.10-6.el6.x86_64
- cyrus-sasl-2.1.23-13.el6_3.1.x86_64
- crone-anacron-1.4.4-7.el6.x86_64
- crontabs-1.10-33.el6.noarch
- nfs-utils-1.2.3-36.el6.x86_64
- selinux-policy-3.7.19-195.el6.noarch
- kernel-firmware-2.6.32-358.el6.noarch
- dhclient-4.1.1-34.P1.el6.centos.x86_64
- system-config-firewall-base-1.2.27-5.el6.noarch
- bfa-firmware-3.0.3.1-1.el6.noarch
- iwl100-firmware-39.31.5.1-1.el6.noarch
- b43-openfwfw-5.2-4.el6.noarch
- aic94xx-firmware-30-2.el6.noarch
- iwl1000-firmware-39.31.5.1-1.el6.noarch
- authconfig-6.1.12-13.el6.x86_64
- gettext-0.17-16.el6.x86_64
- grub-0.97-81.el6.x86_64
- wget-1.12-1.8.el6.x86_64
- passwd-0.77-4.el6_2.2.x86_64

- audit-2.2-2.el6.x86_64
- acl-2.2.49-6.el6.x86_64
- ql2400-firmware-5.08.00-1.el6.noarch
- ql2100-firmware-1.19.38-3.1.el6.noarch
- libertas-usb8388-firmware-5.110.22.p23-3.1.el6.noarch
- ql2500-firmware-5.08.00-1.el6.noarch
- zd1211-firmware-1.4-4.el6.noarch
- rt61pci-firmware-1.2-7.el6.noarch
- ql2200-firmware-2.02.08-3.1.el6.noarch
- ipw2100-firmware-1.3-11.el6.noarch
- ipw2200-firmware-3.1-4.el6.noarch
- vmware-studio-vami-tools-2.6.0.0-631426.x86_64
- vmware-studio-vami-servicebase-2.6.0.0-631426.x86_64
- vmware-studio-vami-service-system-2.6.0.0-0.x86_64
- vmware-studio-vami-service-oaconfig-1.0.0.0-0.x86_64
- vmware-studio-appliance-config-2.6.0.0-130820235403.noarch
- vmware-studio-vami-login-2.6.0.0-631426.x86_64
- libgcc-4.4.7-3.el6.x86_64
- filesystem-2.4.30-3.el6.x86_64
- ncurses-base-5.7-3.20090208.el6.x86_64
- nss-softokn-freebl-3.12.9-11.el6.x86_64
- glibc-2.12-1.107.el6.x86_64
- bash-4.1.2-14.el6.x86_64
- libcap-2.16-5.5.el6.x86_64
- info-4.13a-8.el6.x86_64
- libcom_err-1.41.12-14.el6.x86_64

- chkconfig-1.3.49.3-2.el6.x86_64
- libacl-2.2.49-6.el6.x86_64
- nss-util-3.14.0.0-2.el6.x86_64
- libsepol-2.0.41-4.el6.x86_64
- shadow-utils-4.1.4.2-13.el6.x86_64
- gamin-0.1.10-9.el6.x86_64
- readline-6.0-4.el6.x86_64
- xz-libs-4.999.9-0.3.beta.20091007git.el6.x86_64
- libidn-1.18-2.el6.x86_64
- file-libs-5.04-15.el6.x86_64
- tcp_wrappers-libs-7.6-57.el6.x86_64
- pcre-7.8-6.el6.x86_64
- lua-5.1.4-4.1.el6.x86_64
- bzip2-1.0.5-7.el6_0.x86_64
- libuuid-2.17.2-12.9.el6.x86_64
- expat-2.0.1-11.el6_2.x86_64
- krb5-libs-1.10.3-10.el6.x86_64
- elfutils-libelf-0.152-1.el6.x86_64
- libtirpc-0.2.1-5.el6.x86_64
- libselinux-utils-2.0.94-5.3.el6.x86_64
- cpio-2.10-11.el6_3.x86_64
- gdbm-1.8.0-36.el6.x86_64
- perl-version-0.77-129.el6.x86_64
- perl-Pod-Simple-3.13-129.el6.x86_64
- perl-5.10.1-129.el6.x86_64
- libgcrypt-1.4.5-9.el6_2.2.x86_64

- dbus-glib-0.86-5.el6.x86_64
- libnih-1.0.1-7.el6.x86_64
- gmp-4.3.1-7.el6_2.2.x86_64
- file-5.04-15.el6.x86_64
- xz-4.999.9-0.3.beta.20091007git.el6.x86_64
- libutempter-1.1.5-4.1.el6.x86_64
- procps-3.2.8-25.el6.x86_64
- psmisc-22.6-15.el6_0.1.x86_64
- db4-utils-4.7.25-17.el6.x86_64
- libss-1.41.12-14.el6.x86_64
- m4-1.4.13-5.el6.x86_64
- libgomp-4.4.7-3.el6.x86_64
- binutils-2.20.51.0.2-5.36.el6.x86_64
- ncurses-5.7-3.20090208.el6.x86_64
- less-436-10.el6.x86_64
- gzip-1.3.12-18.el6.x86_64
- cracklib-dicts-2.8.16-4.el6.x86_64
- pam-1.1.1-13.el6.x86_64
- hwdata-0.233-7.9.el6.noarch
- plymouth-scripts-0.8.3-27.el6.centos.x86_64
- cvs-1.11.23-15.el6.x86_64
- logrotate-3.7.8-16.el6.x86_64
- nss-sysinit-3.14.0.0-12.el6.x86_64
- openldap-2.4.23-31.el6.x86_64
- libcap-ng-0.6.4-3.el6_0.1.x86_64
- ethtool-3.5-1.el6.x86_64

- libevent-1.4.13-4.el6.x86_64
- libsemanage-2.0.43-4.2.el6.x86_64
- slang-2.2.1-1.el6.x86_64
- plymouth-core-libs-0.8.3-27.el6.centos.x86_64
- openssl-1.0.0-27.el6.x86_64
- python-2.6.6-36.el6.x86_64
- libcurl-7.19.7-35.el6.x86_64
- rpm-libs-4.8.0-32.el6.x86_64
- rpm-python-4.8.0-32.el6.x86_64
- python-urlgrabber-3.9.1-8.el6.noarch
- gpgme-1.1.8-3.el6.x86_64
- newt-python-0.52.11-3.el6.x86_64
- python-iniparse-0.3.1-2.1.el6.noarch
- yum-3.2.29-40.el6.centos.noarch
- mysql-libs-5.1.66-2.el6_3.x86_64
- fipscheck-1.2.0-7.el6.x86_64
- centos-release-6-4.el6.centos.10.x86_64
- iptables-1.4.7-9.el6.x86_64
- iputils-20071127-16.el6.x86_64
- initscripts-9.03.38-1.el6.centos.x86_64
- libdrm-2.4.39-1.el6.x86_64
- kbd-1.15-11.el6.x86_64
- dracut-kernel-004-303.el6.noarch
- openssh-5.3p1-84.1.el6.x86_64
- postfix-2.6.6-2.2.el6_1.x86_64
- cronic-1.4.4-7.el6.x86_64

- nfs-utils-lib-1.1.5-6.el6.x86_64
- iptables-ipv6-1.4.7-9.el6.x86_64
- dhcp-common-4.1.1-34.P1.el6.centos.x86_64
- kernel-2.6.32-358.el6.x86_64
- selinux-policy-targeted-3.7.19-195.el6.noarch
- openssh-server-5.3p1-84.1.el6.x86_64
- iwl5150-firmware-8.24.2.2-1.el6.noarch
- iwl6050-firmware-41.28.5.1-2.el6.noarch
- iwl6000g2a-firmware-17.168.5.3-1.el6.noarch
- iwl6000-firmware-9.221.4.1-1.el6.noarch
- bind-utils-9.8.2-0.17.rc1.el6.x86_64
- man-1.6f-32.el6.x86_64
- libxml2-python-2.7.6-8.el6_3.4.x86_64
- gdb-7.2-60.el6.x86_64
- efibootmgr-0.5.4-10.el6.x86_64
- sudo-1.8.6p3-7.el6.x86_64
- e2fsprogs-1.41.12-14.el6.x86_64
- attr-2.4.44-7.el6.x86_64
- iwl5000-firmware-8.83.5.1_1-1.el6_1.1.noarch
- ivtv-firmware-20080701-20.2.noarch
- xorg-x11-drv-ati-firmware-6.99.99-1.el6.noarch
- atmel-firmware-1.3-7.el6.noarch
- iwl4965-firmware-228.61.2.24-2.1.el6.noarch
- iwl3945-firmware-15.32.2.9-4.el6.noarch
- rt73usb-firmware-1.8-7.el6.noarch
- ql23xx-firmware-3.03.27-3.1.el6.noarch

- rootfiles-8.1-6.1.el6.noarch
- vmware-studio-init-2.6.0.0-130820235404.noarch
- vmware-studio-vami-cimom-2.6.0.0-631426.x86_64
- vmware-studio-vami-service-core-2.6.0.0-0.x86_64
- vmware-studio-vami-service-network-2.6.0.0-0.x86_64
- vmware-studio-vami-service-update-2.6.0.0-0.x86_64
- vmware-studio-vami-lighttpd-2.6.0.0-631426.x86_64